東京の発展を象徴するタワーとモノレール　提供：生田誠氏

# 3章

# 市街地の拡大と都市基盤の充実

## 高度経済成長とオリンピック［1950年代–1980年代］

高度経済成長期に突入すると、
東京への人口・産業の集中に拍車がかかり、モータリゼーションの波も押し寄せました。
東京の都市づくりは、戦後復興から現代都市としての整備を進める段階へと移りました。
オリンピックを契機として、急速にインフラが整備されるとともに、
巨大化を続ける東京ならではの都市問題に対応することが求められました。

**【高度成長期・昭和後期の主な出来事】**

**昭和31（1956）年 ▶**
経済白書にて
「もはや戦後ではない」と宣言

**昭和33（1958）年 ▶**
東京タワー完成
「第1次首都圏基本計画」の決定

**昭和36（1961）年 ▶**
建築基準法の改正（容積地区制の導入）

**昭和39（1964）年 ▶**
オリンピック関連街路の整備
東京砂漠（東京の水不足）
東京モノレール開通
東海道新幹線開業
第18回オリンピック競技大会が
東京で開催

**昭和43（1968）年 ▶**
国民総生産（GNP）が世界第2位へ
新都市計画法の公布
霞が関ビルディング完成

**昭和44（1969）年 ▶**
東京都公害防止条例の公布

**昭和46（1971）年 ▶**
多摩ニュータウン入居開始

**昭和48（1973）年 ▶**
第1次オイルショック